

学年	中学3年	教科	技術・家庭科	科目	技術・家庭	単位数	1
教科書名		技術・家庭科（開隆堂）		副教材名	なし		
コース・クラス		中高一貫					

I. 目標

〈家庭科 1・3学期〉

生活に必要な知識・技術の習得を通して、進んで生活をよりよくする能力と実践的な態度を育てる。

〈技術 2学期〉

実践的・体験的な学習活動を通して、情報分野に関する基礎的・基本的な知識および技術を習得するとともに、情報に関する技術を活用する能力と態度を育てる。

II. 授業のねらい

〈家庭科 1・3学期〉

住居、消費生活、食などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。

学習した知識や技術を生かして、生活課題を主体的に解決する態度と実践的に生活を充実させようとする態度を育成する。

〈技術 2学期〉

コンピュータが組み込まれた機器の特徴や仕組みについて学び、よりコンピュータを身近なものにする。また、実践的な学習活動から、プログラミングに対する興味・関心を向上させ、生徒が自ら問題解決に向け行動する力を育てる。

III. 授業の進め方

〈家庭科 1・3学期〉

- (1) 教科書を中心に授業を展開し、プリントを使用して知識の定着を図る。
- (2) 適宜実習を行い、実践的・体験的な授業を展開する。

〈技術 2学期〉

- (1) 教科書の内容を中心に授業を展開する。
- (2) 作成課題を行うことにより、実践的な授業を展開し、知識・技術の定着を図る。

IV. 学習上の留意点

〈家庭科 1・3学期〉

- (1) 教科書、授業プリントを必ず用意して授業に臨むこと。
- (2) 普段の生活と関連づけて考えること。
- (3) 提出物の期限は必ず守ること。

〈技術 2学期〉

- (1) 生活や社会を支える情報の技術について考える。
- (2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決方法について考える。
- (3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決について考える。

V. 定期試験

(1) 教科書と授業プリントの内容に基づいて出題する。

(2) 定期試験の範囲（予定）

1 学期 期末試験（家庭科）：「被服製作・食・住まい」について

2 学期 期末試験（技術）： 双方向性のあるコンテンツによる問題解決、計測・制御による問題解決

3 学期 学年末： なし

VI. 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物の提出状況と内容、授業の取り組み方などで総合的に評価する。

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期 (家庭科)	4	被服製作	定期試験 作品 提出物 意欲・態度	・基本の手縫いを習得する。
	5	地域の食文化		・郷土食や行事食などの継承・創造のために、日本の食文化を理解する。
	6	さまざまな食品とその選択		・食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。
	7	住まいのはたらきと安全安心な暮らし		・住まいの基本的な役割を理解する。 ・家庭内事故の種類と、その原因を知る。
二学期 (技術)	9	情報セキュリティと情報モラル	定期試験 作品 提出物 意欲・態度	・情報を正しく扱うためのルールやマナーを考え、安全対策の必要性を知る。
	10	双方向性のあるコンテンツによる問題解決		・情報を処理する手順を考えるとともに、基本プログラムを作成できる。
	11			
	12			
三学期 (家庭科)	1	生涯経済計画	意欲・態度 提出物	・自分のライフプランを考える
		オーストラリアの食文化		・オーストラリアの食文化を理解する。
	調理実習	・安全や衛生に注意し、調理の基本を取得する。		
	2	糖度実験		・飲み物の糖度を知り、その特徴を理解する。
3				

VII. 授業計画

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。